

# 畑作物の直接支払交付金 単価の改定に関する委員長談話

本日、農水省において、本道の畑作農業が台風等による甚大な被害に見舞われたなかで、農業所得に直結する畑作物の直接支払交付金単価を改定したことは残念である。

生産現場では、被災からの復旧・復興に全力を挙げている途上であり、加えて、例年より早い積雪で未収穫作物が発生するなど、来年の営農が見通すことができないまま大きな不安が広がっている。こうした状況下で、改定の先送りを求める農業者の声が聞き入れられなかったことは極めて遺憾である。

特に、恒常的に作付面積が減少し、原料不足に陥っているでん粉原料用馬鈴しょの単価が大幅に引き下がったことは、生産意欲の減退に追い打ちをかけることになるものと危惧される。

今後は、でん粉原料馬鈴しょなど畑作物の安定生産に向けた対策が講じられ、輪作体系の維持と経営の安定が図られるよう引き続き運動を展開していく。

2016年11月28日

北海道農民連盟委員長 石川純雄